

いつも元気!

飯塚園長ごあいさつ



令和5年度第1回目の職員会議

令和4年4月1日から始まったゆりかご園の運営も、早1年になりました。

昭和44年10月に藤江母子寮内で保護者が我が子を療育するために自ら設立した施設であった「明石市立ゆりかご園」の保護者の方の思いを大切にすることが重要な使命と思い、この一年を、職員全員で走り抜けてきました。

通園を利用されるこども達も4月当初33名から始まり、現在45名の子どもたちが来て来ています。季節の行事は、できるだけリアルなサンタさんや鬼の演出をしたり、餅つきでは実際お餅を手にとってもらったり、初めて、「アートシップあかし」に子どもたちの自由な絵を出品いたしました。何事も職員は工夫を凝らしてきました。日々の療育でも、医療、リハビリ、保育が情報共有し、こどもの発達に対して同じ方向に向かってアプローチすることを意識してきました。

新たな取組みとして、「単独通園」「ダウン症教室(カナリヤ教室)」「重度心身障害児者の生涯学習プロジェクト(ふりかけプロジェクト)」等を開始し、必要と思われる取り組みを職員の創意工夫で可能にできるということを体験した1年でした。

来年度も、引き続き、通園やリハビリに来られる方たちだけではなく、地域の課題解決に向けて、幅広い視野を持って、活動させていただきます。その為には皆様の本音のご意見を頂ければ、大変ありがたいと思います。令和5年度も、引き続きよろしくお願いいたします。

誤嚥ケアを身近に感じるワークショップ! ~田原言語聴覚士の願い~

この度、「誤嚥ケアインストラクター」を取得しました。この資格を得ることでいろんな方に『誤嚥』というものを知らせてもらうためのワークショップを開催することができます。『誤嚥』は「誰にでも起きうる身近なこと」です。小さなコツを学ぶことで「誰にでも大切な方を助けられること」という事実を、多くの方に広めていきます。その第一歩としてゆりかご園の職員に向けてワークショップを開催しました。真剣に受講していただき、しっかり誤嚥体験をしてもらえました。このワークショップでは誤嚥を体験します。その体験を通して誤嚥ケアを身近に感じていただけたらと思います。また、地域に向けても発信していき、子どもたちの支援にもつながるようと思っています。「だれでも知っている」を社会の当たり前となるよう活動していけたらと思います。(言語聴覚士:田原由美子)



ワークショップを行う田原言語聴覚士

お子さまの健やかな成長と幸せを願って! ~ひな祭り行事のご報告~

3月3日(金)スタート地点から段ボールカーやそりに乗って出発して、着物風おくるみや冠を着用してお雛様・お内裏様になりきり、皆とても可愛いお雛様・お内裏様に変身しました。いつもと少し違う活動に驚きや不安も入り混じっているお子様の様子も見られましたが、お友だちの可愛い姿を見たり、一緒にパネルを飾り付けたりする中で笑顔も見られる一時となりました。“ひなまつり”という伝統行事に少しでも楽しみながら、ふれられる機会になれたのではないかと思います。これからはお子さまの健やかな成長、幸せを願っています。



ゆりかご園ひな祭り



寄贈していただいた雛人形

佐藤安生氏(中央)より雛人形を寄贈していただきました

(児童指導員:丸喜明日花)

誰もが"いきいき"と暮らせる明石へ! ~第31回療育研究大会のご報告~



登壇し報告する徳岡主任

令和5年3月5日(日)に社会福祉法人明桜会主催の令和4年度地域生活向上セミナーが開催されました。第1部は泉市長から「明石市の現状とこれから話したいこと」、第2部は「現状から見えるこれからの明石に必要なこと」をテーマにして、療育、生活介護事業所、就労移行支援・定着支援事業所、共同生活援助とそれぞれの立場からの発表する機会があり、療育の立場からはゆりかご園が登壇させていただきました。

現状と課題、今後は何が必要となるかを考えた時に、ゆりかご園としては、医療的ケアや重症心身障害があるお子様が利用できる資源が少ないことを第一に挙げました。明石市市内に利用できる資源が少ないために、近隣の市まで移動しなければならない負担やすぐに診てもらえない不安、地域で暮らすことが難しい現状があります。また、インクルーシブ保育の現状、療育から地域へ出る場合や進路についての課題、きょうだい児支援を含んだ家族支援の今後についても触れていきました。

このような機会を頂戴し、改めて児童発達支援センターとして地域支援の役割を意識することができました。現在、ゆりかご園では地域支援プロジェクトが発足し動き始めています。一人だから、一つの施設だからできないではなく、職員一人ひとりが今できることを考え取り組むことの大切を感じています。

現状、課題を挙げるばかりではなく今後何が必要かを考え、行政にはたらきかけることや地域全体で取り組むことが、誰一人取り残さずに明石でいきいきと暮らせることに繋がると考えています。

(児童発達支援管理責任者兼主任:徳岡優子)



療育研究大会会場の様子

